

Bell Forum

ベルフォーラム

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

産婦人科の挑戦

連載 登録医のご紹介

- TOPICS 感染制御への取り組み
市民公開講座開催 報告
地域医療懇話会を開催しました
第13回大阪千里メディカルラリー「堺チーム」優勝

河津桜とメジロ

2015
Spring
No. 47

産婦人科の挑戦



患者さんの体と心をサポート
地域に根付いた医療のために

婦人科

産婦人科は、現在 12 名が所属しています。婦人科は、良性疾患、悪性腫瘍手術から化学療法、放射線治療と幅広く治療を行っており、妊孕性温存のための子宮頸癌手術を行える数少ない病院のひとつです。当院救命センターとの協力による婦人科救急受入れや、腹腔鏡手術にも積極的に取り組んでおり、年々増えてきています。

産科

産科は、地域周産期母子医療センター、OGCS（産婦人科診療相互援助システム）準基幹病院として、26 週 500g 以上を基準に母体搬送の受け入れをしています。総合病院の利点を生かし、他科やコメディカルとの連携による合併症妊娠への対応に積極的なのも特徴です。新病院では、MFICU（母体胎児集中治療室）を新設し、産科病棟には専用手術室を備え、同一フロアには堺市内唯一の NICU・GCU（新生児集中治療室／継続保育治療室）があり、緊急帝王切開を迅速かつ安全に行う設備が整っています。

分娩

年間約 1000 件の分娩はすべて LD 室（陣痛から出産まで同じ部屋で過ごすこと）で行っており、新病院からはお子様を含めたご家族立会いでの出産を受け容れており、ご好評をいただいています。産後は、ほぼ全室個室での母子同室を行い、こちらもお子様やご家族とゆっくり過ごしていただくことが出来ます。入院時にお渡しするアメニティ類を新病院から一新し、お産後のお祝い膳、アロママッサージでは疲れた身体を癒していただいています。

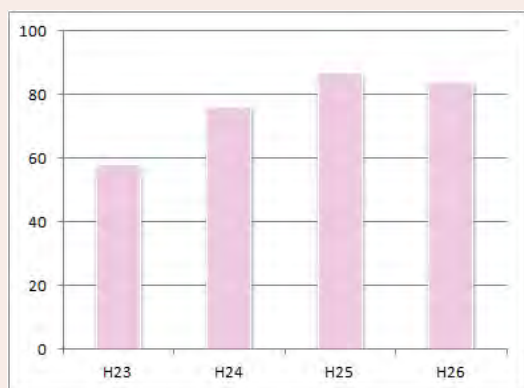


分娩時に一番つらい陣痛室から分娩室までの移動をする必要がありません。できる限りリラックスしてお産に臨めるよう配慮されています。



アメニティ

OGCS（産婦人科診療相互援助システム）での緊急搬送の受け入れ件数



分娩件数

【H26年 帝王切開 18.6% (185件)】



健診

健診は、病棟と同フロアにある産科外来で行っており、看護スタッフ全員が助産師で、健診ごとの助産師外来では専門知識を生かしたきめ細やかなケアを実践しています。ゆったりとした外来待合室にはキッズコーナーが2つあり、お子様と一緒に健診が可能です。



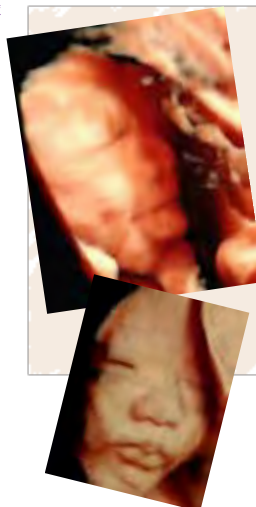
妊娠中の過ごし方、お産のポイント、お産やお産後への不安、医師にはなかなか聞けないことなど、なんでもご相談下さい。



当院通院中の患者さんだけでなく、大阪府下や他府県や海外からも多数来院いただいています。ハイリスク症例の羊水検査やクアトロテストも行っていますので、通院中の健診で異常が疑われた方や、これまでの妊娠で異常があり不安のある方など、いつでもご相談ください。

エコー外来

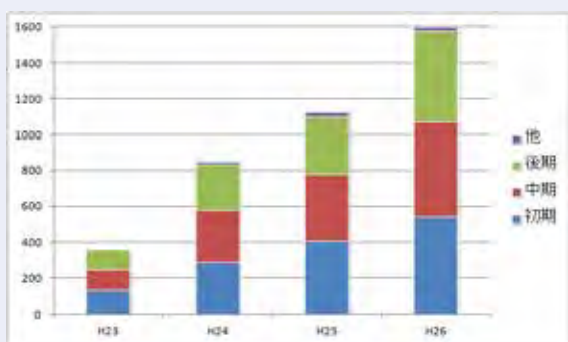
胎児超音波専門外来（エコー外来）の担当医である峯川産婦人科部長は、妊娠初期 NT（後頸部浮腫）スクリーニングの提唱者であるニコライデス教授の指導の下、胎児超音波の本場 London にある FMF（Fetal Medicine Foundation）でのトレーニングを3年間受けてきました。妊娠初期 NT スクリーニングを含めた胎児精密超音波検査の FMF 全認定資格者は、国内には2名しかおらず、臨床経験と知識を生かした検査・カウンセリングを行っています。



エコー外来の 3D/4D エコーでは、お腹の中の赤ちゃんの様々な表情を見ることができ、ご家族と一緒に楽しみに来られている方もたくさんおられますし、毎回お渡しするエコーを録画した DVD も好評をいただいています。



エコー外来 件数



赤ちゃんにやさしい病院

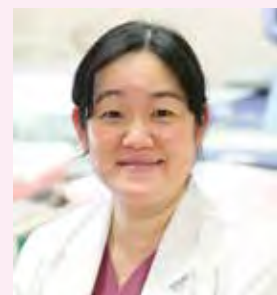
長年の母乳育児サポートへの努力を認めていただき、WHO・ユニセフから BFH（赤ちゃんにやさしい病院）の認定を頂きました。周産期センターのみならず、院内スタッフ一同が力を合わせ、より多くの患者さんのニーズにお応えできるよう、今後ともがんばってまいります。

略歴

平成 8 年 大阪大学医学部附属病院産婦人科 研修医
 平成 9 年 りんくう総合医療センター
 市立泉佐野病院産婦人科 医員
 平成 11 年 大阪府母子保健総合医療センター産科 医員
 平成 13 年 大阪大学医学部附属病院産婦人科 医員
 平成 14 年 大阪大学医学部附属病院産婦人科 助教
 平成 19 年 英国キングスカレッジ病院
 （クリニカルサーチフェロー）
 平成 23 年 ベルランド総合病院産婦人科 医長
 平成 25 年 ベルランド総合病院産婦人科 部長

産婦人科 部長

みねかわ りょうこ
峯川 亮子



資格等

母体保護法指定医
 日本産科婦人科学会：産婦人科専門医
 日本周産期新生児医学会：周産期（母体・胎児）専門医
 新生児蘇生法専門コースインストラクター
 FMF* London 認定医 (*: Fetal Medicine Foundation)

感染制御

ベルランド総合病院は、医師（ICD: Infection Control Doctor）、看護師（ICN: Infection Control Nurse）、薬剤師、検査技師からなる ICT（Infection Control Team）が中心となって感染制御に取り組んでいます。

副院長
Infection Control Doctor (ICD)
大島利夫

持ち込まない

拡げない

作らない

感染制御の中核となるのは MRSA などの多剤耐性菌対策です。多剤耐性菌対策は、耐性菌を①持ちこまない②拡げない③作らない、の3種類に分類されますが、実際には、耐性菌保菌者を入院前に見つけ出し、排除することはほぼ不可能であり、拡げない、作らないための対策を中心に行っています。

耐性菌を拡げない

手指衛生を中心とする標準予防策（Standard Precaution）の遵守が中心です。そのための職員研修を実施するほか、新病院では交差感染予防に配慮した環境整備を行いました。

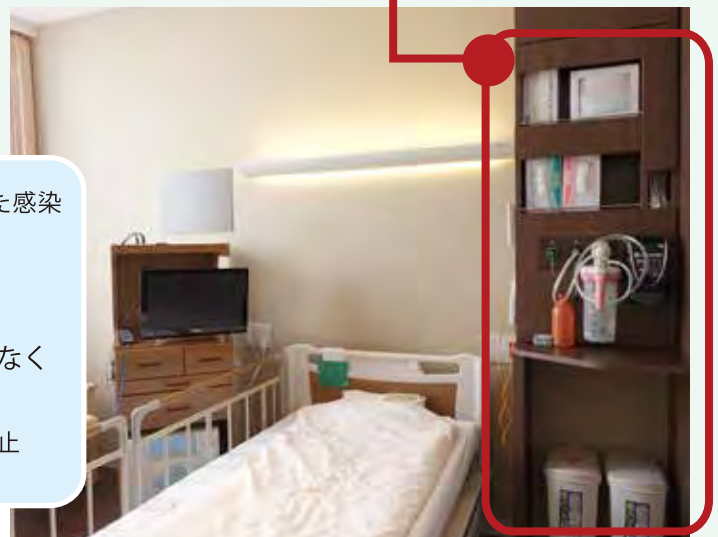
当院独自のメディカル・コンソールを全病床に設置

【メディカルコンソール】

手袋、エプロン、ガウン、シールド付きマスク、吸引チューブ、ウエルフォーム（手指消毒剤）などを収納する棚

感染管理認定看護師
太田真希

- 患者さんに必要なケアに合わせた感染対策用品をベッドサイドに設置
- 感染対策用品を「取りに行く・準備する」ではなく「必要なものが、そこにある」というコンセプトで交差感染を防止



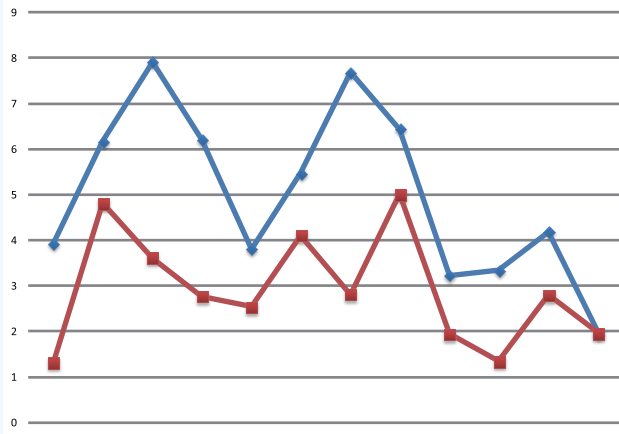
病棟清洗室の整備



- このエリアのコンセプト「汚物処理室」ではなく使用した物品が、洗浄され清潔にもどるという意味の「清洗室」

- センサー式フットスイッチによる自動扉を採用
- 汚物流し槽、水道蛇口、手洗い石鹸など、非接触の自動センサー
- 清潔・不潔エリアを区分

MRSA感染率・罹患率の推移



	11月	12月	H26年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
■感染率(%)	3.94	6.17	7.91	6.21	3.81	5.47	7.69	6.44	3.23	3.34	4.19	1.96
■罹患率(%)	1.32	4.81	3.61	2.77	2.54	4.11	2.81	5.01	1.94	1.34	2.8	1.96

院内交差感染を早期に察知し、拡大を予防するために、MRSA など重要監視菌のサーベイランスを常時行っています。



検査技師
笹谷純平

※厚生労働省サーベイランス（JANIS）と同じ算出方法を採用

感染率(%)

=MRSA 感染症患者数 / 総入院患者数 × 1000

罹患率(%)

=新規 MRSA 感染症患者数 / (総入院患者数 - 継続感染症 MRSA 患者数) × 1000

耐性菌を作らない

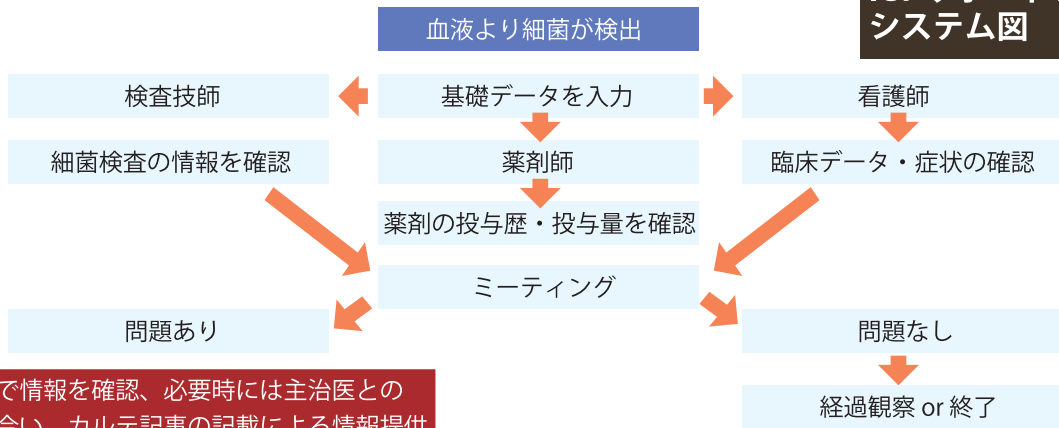
手抗菌薬の適正使用が重要であり、それをサポートするために右記の活動をしています。

- 血液培養のグラム染色を 24 時間対応で実施
- 日勤帯受付の細菌検査は、同日中にグラム染色の結果報告
- グラム染色の至急オーダーは 30 分以内に結果報告
- 抗 MRSA 薬、カルバペネム系抗菌薬の申告制
- 血液培養陽性例、広域抗菌薬長期使用例を対象として抗菌薬治療の内容を評価し、必要に応じて主治医に情報提供、助言を行う「ICT サポート」



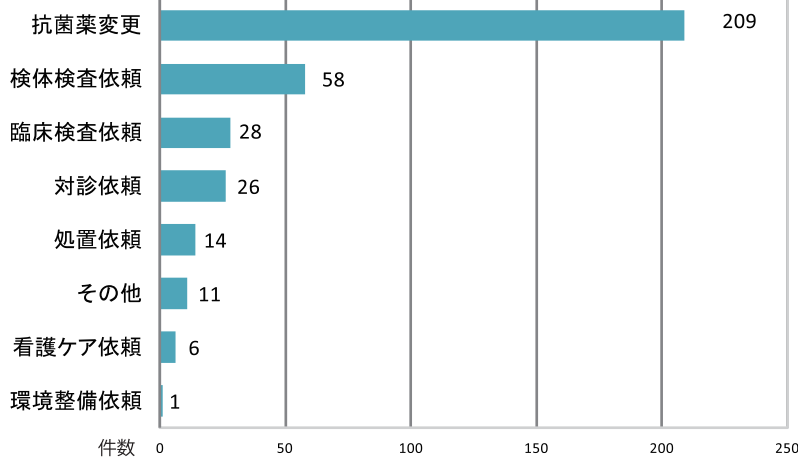
抗菌化学療法認定薬剤師
感染制御専門薬剤師
石田茂伸

ICT サポートチームのシステム図



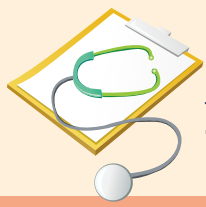
病棟で情報を確認、必要時には主治医との話し合い、カルテ記事の記載による情報提供

情報提供の内容



中央検査部
Infection Control Doctor (ICD)
川村真代

● 当院で検出された細菌の薬剤感受性を集計したアンチバイオグラムを毎年作成し、職員に情報提供



登録医のご紹介

徳川レディースクリニック

とくがわ よしひろ
院長 徳川 吉弘先生

産婦人科



星座：さそり座

趣味：読書

血液型：O型

住所：堺市西区浜寺南町 3-2-1 浜寺メディカルスクエア 3F
TEL：072-266-3636

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○		
16:30～19:30	○		○		○			

※ 休診日… 火・木・土曜午後、日曜、祝日

- Q. 医師を目指したきっかけは？
A. 病気の原因や治療法を勉強したいと思ったからです。
- Q. 診察の際に心がけている事は？
A. 患者さんの主訴を理解し、解決するよう努力しています。
- Q. 地域医療について
A. 病院への getekeeper としての役割を果たしながら、個々の患者さんに継続的な医療を提供できるように努力したいです。
- Q. ベルランド総合病院への希望・要望
A. 地域の中核病院としてのご活躍を期待しています。

- Q. 最後に一言お願いいたします。
A. いつもお世話になっております。失礼な紹介の仕方になり迷惑をおかけしていることも多いと思いますが、今後ともよろしくお祈いします。

第18回
ベルランド健康塾

市民向け セミナー

【参加無料】

認知症

「もしも、親や身近な人、あるいは自分自身が認知症になってしまったら…」
そんな不安を抱いたことはありませんか。
そもそも、認知症とは？ 家族や周囲は、本人とどう接したらいいの？
地域の人は助けてくれる？ そのような率直な疑問にお答えします。

講師 認知症看護認定看護師 石川 智子

日時 平成 27年 2月 12日 (木) 午後 2時 30分
午後 3時 00分

場所 ベルランド総合病院 地下1階 AIF ホール
※ご予約は不要です。直接お越しください。

お問い合わせ

ベルランド総合病院
地域医療連携室 TEL 072-234-2001 (代)

新規登録医

中区	辻本クリニック つじもと なおゆき 辻本 直之
南区	坂井クリニック さかい やすお 坂井 靖夫
高石市	沢田レディースクリニック さわだ たけし 沢田 雄至

登録医件数 H27.1.7 現在 365 件

医療従事者向け セミナー

2月14日 (土)	第3回泉北骨・関節セミナー ホテル・アゴーラリージェンシー堺
3月14日 (土)	第4回 OBGYN オープンクリニカルカンファレンス ホテル・アゴーラリージェンシー堺
4月9日 (木)	第3回泉北循環器連携フォーラム ホテル・アゴーラリージェンシー堺



第5回 ベルランド市民公開講座 開催の報告

地域医療連携室 東 真広

12月13日(土)に第5回ベルランド市民公開講座を堺市東文化会館で開催しました。

当日は定刻2時間前から来場される方もあり、講演開始時には300名を越すほど盛況でした。

公開講座恒例の測定コーナー(血管老化度、骨健康度、酸素飽和度)では、整理券がすぐに完配となるほど地域住民の健康に対する意識の高さが伺えました。また、救急救命士による心肺蘇生法・AED(心臓救命装置)の実技を公開し、市民の皆様にも蘇生人形を使用した心臓マッサージ法に挑戦して頂きました。



心肺蘇生法を専門家から教わる貴重な機会。みなさん真剣に取り組まれました



測定結果がでるまではドキドキ



坂田育弘 顧問

今回の講演は『臨死体験～心肺停止からよみがえった人を見たもの～』というテーマで総合急病救急部センター顧問 坂田育弘が登壇し、実際に心肺停止から心肺蘇生によってよみがえり、社会復帰した人たちが意識消失中に経験された時の記憶が「臨死体験」として紹介されました。

臨死体験の話聞くことが、死への恐怖感をやわらげるのではないかと感想を抱きました。



第13回大阪千里メディカルラリーで優勝しました。

看護部 集中治療室(救急外来部門) 栗之丸智文

平成26年10月4日に開催された「第13回大阪千里メディカルラリー」に、堺チームの一員として出場させて頂きました。

メディカルラリーとは、医師、看護師、救急救命士がチームを組み、設定された救急・災害現場のシナリオに対応して、救命処置技術を競う競技会です。今年度も全国各地から救急医療施設が21チーム参加し、その中で優勝という結果を残すことができました。



救急・災害現場での活動を見据え、日々の訓練や研修で知識・技術の習得を図ったこと、医療チームとして活動することの重要性を理解し、実践したことが良い結果に結びついたと考えます。

今回このような経験の場を頂き、学びを深めたことで、今後、臨床現場における患者さんとその家族のケアに活かしたいと思います。ドクターカーチームの一員として救急医療の質の向上に精進します。

平成 26 年 11 月 15 日

第 18 回 ベルランド地域医療懇話会を開催しました

ベルランド総合病院では、登録医の先生方をはじめとする地域の医療機関・各施設の方々と、当院の医師との相互交流や、病病・病診連携のために、毎年、懇話会を開催し、顔の見える連携を推進しています。

救急医療は地域医療連携とチーム医療の原点

総合急病救急センター 顧問 坂田育弘

平成 26 年度には、わが国の救急車出場件数は 600 万人を超えようとしています。急病救急部は、新病院に移り総合急病救急センターに組織改名し運用しています。傷病者の年齢・重症度・疾病と外傷は、多岐に渡りますが高齢者の急病が増加しています。消防本部救急隊により搬送される傷病者を始め、地域医療支援病院として地域医療連携室を通じて地域医療機関から紹介された傷病者や患者様から直接依頼がある場合にも診療しています。

総合急病救急センターには、救急科専門医はじめ救急専門看護師や救急救命士が専任しており、救急傷病者に適切な初期診療をした上で専門診療科と院内連携を取り患者様に対するさらに適切な専門医療を行っています。また、救



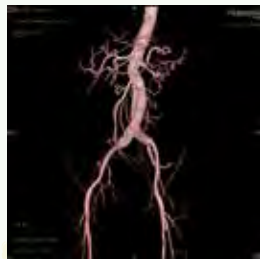
急隊の要請と連携によりドクターカーを出動させ、現場における超急性期の治療を行い救命に努めています。この様に救急医療現場は地域医療連携と密接に関わり、さらに院内外においてチーム医療を最大限に活かして多くの傷病者の救急救命に取り組んでおり、救急医療は地域医療連携とチーム医療の原点といえます。平成 26 年度は救急搬送件数が 6,000 症例に達しそうです。

心臓血管外科の取り組み 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療について

心臓血管外科 部長 南村弘佳



EVAR 術前CT



EVAR 術後CT

高齢者人口の増加により腹部大動脈瘤症例も増加しています。以前から腹部大動脈瘤の治療では、開腹し動脈瘤を直接露出し、動脈を遮断して人工血管を縫合して取り替える人工血管置換術が行われています。最近では、大腿動脈

を切開し細いカテーテルを挿入してばね付きの人工血管（ステントグラフト）を動脈瘤の内側に装着する **ステントグラフト内挿術 (EVAR)** が行われています。低侵襲であることから、高齢者や合併症のため開腹手術が困難な例に対しても腹部大動脈瘤の破裂を予防する手術が可能と考えられます。EVAR は **日本ステントグラフト実施基準管理委員会** によって認定された施設・医師のみが行うことのできる手術です。当院でも 2014 年 9 月に実施施設に認定され、EVAR を開始しました。



高精度放射線治療への取り組み

放射線治療科 副部長 則久 佳毅



定位放射線治療 (SRS/SRT) と強度変調放射線治療 (IMRT) は、高精度放射線治療として放射線治療の中でも特別な位置づけにあります。SRS/SRT は脳転移や孤立性肺腫瘍などに対して、位置精度を高めて 1 回～数回に大線量を照射します。

IMRT は近接している臓器をまもるために複雑な照射を行うもので、前立腺癌や頭頸部腫瘍などで用いられます。

照射直前に骨や臓器の位置を評価して微調整を行うことで、より照射精度を高める技術が画像誘導放射線治療 (IGRT) です。

新たに導入された TrueBeam™ STx with Novalis® Radiosurgery (Varian/Brainlab 社製) は、治療用 X 線に加えて、IGRT の位置照合用にさらに 2 系統の X 線照射機構を有する、高精度放射線治療に特化した放射線治療機です。

IGRT はすでに運用を開始しており、さらに SRS/SRT および IMRT などの高精度放射線治療の開始を目指しています。



ベルランド総合病院の外科医の使命

外科 部長 川崎誠康



各種消化器進行癌に対し、拡大切除や再発巣切除、薬物・放射線との combination 治療、さらに他科との collaboration 手術を積極的に行っています。また、早期癌や良性疾患にはより低侵襲治療を提供すべく腹腔鏡手術などの新技術で対応しています。一方、急性腹症への迅速対応や、敗血症・DIC に対する高レベルな管理に自信があります。外科 generalist として、「最後まで患者を診る」という使命感をもって、地域に必要とされる科を目指したいと考えます。



外科 業務内容

1. 消化器悪性疾患に対する治療	2. 良性疾患に対する手術治療
<ul style="list-style-type: none"> ● 食道癌 胃癌 ● 結腸・直腸・肛門管癌 ● 肝胆膵 原発癌 ● 転移再発癌 	<ul style="list-style-type: none"> ● 胆石 ● 単径ヘルニア ● 痔核
3. 救急疾患対応	4. 一般外科
<ul style="list-style-type: none"> ● 虫垂炎 消化管穿孔 ● 急性胆嚢炎 ● 嵌頓ヘルニア ● 腸閉塞 	<ul style="list-style-type: none"> ● 下肢蜂窩織炎 ● 肛門周囲膿瘍 ● フルニエ症候群 ● 重症褥瘡

肝胆膵外科の紹介

肝胆膵外科 部長 小川雅生



現在、肝胆膵領域の疾患に対しては外科医師全員で取り組んでおります。消化器内科と連携し、個々の症例に応じた最適な治療を行うように心がけ、患者さんの Quality of Life (生活の質) を重視して治療方針を決定しています。

また遠隔転移や主要動脈浸潤がなく、かつ癌遺残なく切除しえると判断した症例に対しては積極的に手術を行っております。さらに腹腔鏡手術や低侵襲手術を肝胆膵領域の疾患にも取り入れており、肝・膵切除への適応拡大をすすめています。

今後も引き続き、「術後の合併症=0」を目指し、患者さんに元気で、かつ笑顔で退院していただけるよう努力していきたいと思います。

上記に加え 他科との collaboration 手術

消化器内科 婦人科 泌尿器科
形成外科 整形外科 など

Excellent License

心臓リハビリテーション指導士

理学療法室 中道 隼人

心臓疾患をもつ患者さんの 社会復帰と再発予防 よりよい生活を維持するために

今回、日本心臓リハビリテーション学会が定める心臓リハビリテーション指導士の資格を取得しました。

心臓リハビリは、心臓病の患者さんが低下した体力を回復し、精神的な自信を取り戻して社会や職場に復帰するための手助けとなります。また、心臓病の再発を予防し、快適で質の高い生活を維持するために心臓の機能を回復させるものです。

心臓リハビリテーション指導士とは、心臓疾患に関わる多職種が円滑に機能するために、心臓リハビリに関する共通認識と知識や用語の共有化を図ることを目的とした資格です。私たち理学療法士は、特に患者さんの運動中の体の反応の確認や適切な運動負荷量の決定、退院後の運動方法の提案などを行います。

ベルランド総合病院は、2011年6月に心大血管疾患リハビ

リテーション料Ⅰの施設基準を取得しました。心臓リハビリチームには6名のスタッフが在籍しており、私を含め4名が資格を取得しています。

2011年7月の心臓リハビリ開始時は急性心筋梗塞や心不全、心臓血管外科術後患者などを対象とし、実施件数は22件でしたが、現在は閉塞性動脈硬化症などにも対象疾患を拡大し、2014年11月の実施件数は464件と大幅に増加しています。また、心臓リハビリでは運動習慣の継続が大切であることから、入院中だけでなく、3-5カ月を目安に外来リハビリも実施しており、退院後の運動習慣の獲得を援助しています。実施した患者さんから高い評価を頂いています。

より質の高い心臓リハビリを実施していくため、当院では週一度、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士など多職種でのカンファレンスを実施し、互いに患者さんの情報を共有しています。

これからも、患者さんの声に耳をかたむけ、地域の先生方のご協力も受けながら、一人でも多くの患者さんの社会復帰や職場復帰、心臓病再発予防に貢献できるよう努力してまいります。



あらゆる疾患や障害に対応した急性期リハビリテーションを提供します。心臓リハビリでは、一人一人に適した運動の強さを設定して、脈拍をモニターしながらトレーニングをします。



心臓リハビリ実施件数

